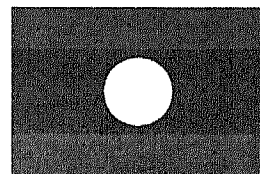


ラオスの人口問題 (世界の人口問題の単元の中で)



Laos

佐藤 安弘

東京都立目黒高等学校

- 担当教科：社会
- 実践教科：地理
- 時間数：5時間
- 対象：高校1年生
- 対象人数：41名

(1) 授業実践のテーマ・目的

- ・世界の人口の分布が不均等であるのは自然環境（地形・気候）や社会環境が要因であることを考えさせる。
- ・世界の人口増加（人口爆発）についてその実態と問題点を考えさせる。
- ・人口の年齢別構成（人口ピラミッド型）や産業別人口構成（三角グラフ）の読み方を知ることにより世界各国の人口動態や人口問題についての因果関係を理解させる。
- ・発展途上国の人口問題に関し、ラオスを例にあげ考えさせる。
- ・先進国の人口問題に関し、ヨーロッパ各国の福祉・高齢化社会に対する取り組みについて知るとともに、これからの日本の人口問題について考えさせる。

(2) 授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【世界の人口と人口分布】 世界に人口、分布状況を理解し、世界の人口の多さを実感させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の多い国上位11か国を地図帳の世界の国々データから調べさせ、黒板に国名ならびに人口の数値を書かせる。人口の多い国上位国がアジアに多いことを知る。 ・世界の人口分布図から世界の中で人口が集中している3地域を知り、アジア地域だけが農業地域であることを理解する。 	地図帳 資料集
2	【人口の構成と転換1】 人口ピラミッドの型からどんなことが読み取れるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増減は自然増減と社会増減で表せることを知る。 ・男女別・年齢別の人口ピラミッドの型とその特徴を理解する。 	資料集
3	【人口の構成と転換2】 人口転換の推移を地域の経済状況から読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・人口転換モデルの図を出生率と死亡率の関係から理解させ、また、人口ピラミッドの型と対応できるようにする。 ・産業別人口構成を三角グラフから読み取れ、国の経済状態を理解する。 	資料集 三角グラフ作業プリント
4	【ラオスの人口問題】 発展途上国の人口問題の例としてラオスを取り上げ、考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単にラオスの国情を知る。 ・ラオスの医療状況を知り、乳幼児死亡率の高さ、妊婦の死亡率の高さを知る。 ・ラオスの病院で活躍している青年海外協隊員の活動報告と先進国の国々がさまざまなかたちで発展途上国を援助している実情を紹介する。 	ラオス全図 写真
5	【先進国の人口問題】 先進国の人口問題に対する取り組みを知り、日本の人口問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・スウェーデンを例にあげ、少子化対策や福祉問題について考える。 ・日本の少子高齢化社会が進行していくと生じる問題点を考えさせ、今後どうすべきなのか考えさせる。 	

【3】授業の詳細

1 次限目：【世界の人口と人口分布】

まず、黒板に人口の多い国ベスト 11 と板書し、1 位：中国、13 億 1100 万人と書く。そして、10 人の生徒をあて、順番に地図帳の巻末の世界の国々のページから人口の多い国を調べさせ板書させた。

1 位：中国 2 位：インド 3 位：アメリカ合衆国
4 位：インドネシア 5 位：ブラジル
6 位：パキスタン 7 位：ロシア 8 位：バングラデシュ
9 位：ナイジェリア 10 位：日本 11 位：メキシコ

上記の 11 カ国は 1 億人以上の人口を有する国であり、また 1 億人以上の国の半分以上はアジアの国であることに、調べている間に生徒たちは気づいた。

次に人口分布図を見て、人口が集中しているところは、西ヨーロッパ、アメリカ合衆国北東部、モンsoonアジア（中国～東南アジア～インド）であることを確認するが、前者 2 つは先進工業地域であるのに対し、後者 1 つは農業地域であることを確認させた。加えて、途上国地域でありながら人口が多いのはその人口を支えることができるほど農作物が生産されている地域であることを認識させた。

2・3 時限目：【人口の構成と転換】

人口に関する各種の図の読み取り、分析を行った。人口ピラミッドの型では富士山型→釣鐘型→つぼ型と出生率、死亡率の変化で移行していくことを理解し、人口転換モデルの図と合わせて人口の変化を理解させた。人口転換モデルの図では出生率と死亡率の差で人口が増減するメカニズムを理解させた。

発展途上国では子供は親にとって稼ぎ手であり、しかし乳幼児死亡率が高いため、出生率も高くなる。第二次世界大戦後、発展途上国で、医療面の改善から死亡率が低下したため、「人口爆発」が起きることになった。それに対し先進国では、女性の社会進出、医療制度、社会保障制度の整っているため、出生率・死亡率とも低い。そして、先進国の中には、少子高齢化により、人口減少が起きている国

があり、ヨーロッパの例を挙げて、そのような国では労働者不足を補うため、外国人が多く移民してくる現状から自分たちが老後になるの頃の日本を想像させ、今後の日本について考えさせた。

三角グラフに各国のデータを落とし、産業の構成比により、生徒たちは各国の経済状況を読み取れるようになった。

4 時限目：【ラオスの人口問題】

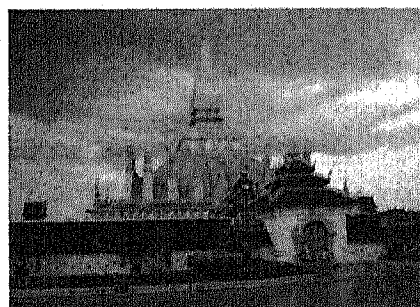
今回の研修による授業実践

まずラオスの簡単なプロフィール（国土面積、人口、多民族国家）や写真で現地の様子を紹介した。その写真の一つで豊かな農村風景も紹介した。

次にユニセフ「世界こども白書 2006」のデータ、ラオスの乳児死亡率、5 歳未満児死亡率を提示し、死亡率の高さを知らせた。また、妊産婦死亡率がなぜ高いのかを生徒に問いかけた。

医療の発達の遅れ、病院施設不足、薬不足の実態を知らせ、さらに、貧困層では病院に通うお金がないこと、医療が高額なため治療が続けられないため、日本では命を落とすことがない病状でも死亡している実態を生徒に伝えた。生徒は少し衝撃的な様子であった。そして、地方では、妊婦は森の中で一人で出産し、出産後ご飯しか食べてはいけぬ風習があったり、妊産婦の死亡が一日 3 件はあることを知り生徒は驚いていた。また、地方（少数民族居住地）には医療施設が少なく、都会に比べて地方の死亡率の高さを知らせ、主要民族（ラオ族）と少数民族間の行政サービスの格差について考えさせた。

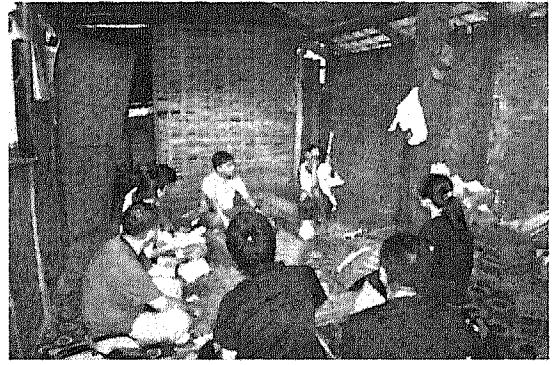
ラオスに看護師として派遣されている青年海外協力隊員から聞いた話を生徒にすることにより、ラオスの医療事情を生徒に伝え、ラオス人気質も紹介することにより、援助活動の大変さを理解させた。



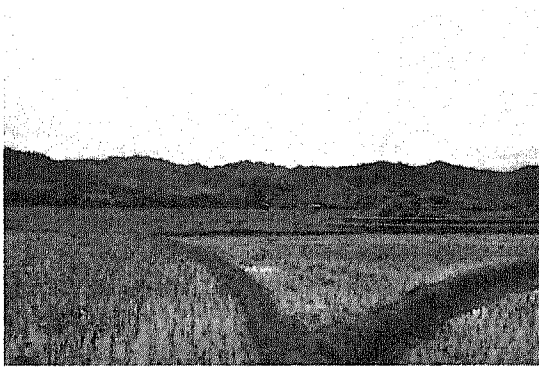
1：タートルアン



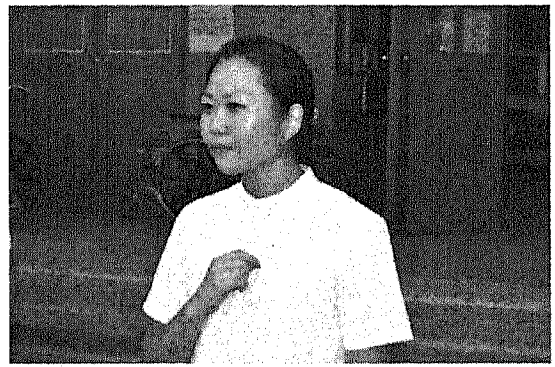
2: ピエンチャンの街角



6: 農村の住居の中



3: ルアンパバン郊外の農村



7: 青年海外協力隊員 (看護師)



4: モン族の子供



8: 現地病院



5: ラオ族の子供



9: 農村の老人

5時限目：【先進国の人口問題】

先進国では人口の少子高齢化が進み、合計特殊出生率が低下、高齢化社会、高齢社会になっていることを知らせ、その背景には晩婚化・非婚化の進行、離婚率の上昇、家族計画の普及、女性の高学歴化と社会進出、そして年金などの老後の社会保障制度の充実があることを理解させた。

スウェーデンを例に挙げ、出生率を上げるための子育て支援政策の充実、保育施設、育児休業制度の確立を紹介し、日本の政策と比較させ、考えさせた。

また、社会福祉制度の充実、年金制度、老人ホームや病院施設などの維持のために高額な税金負担があり、生産年齢層の不満になっていること、介護者の人手不足であること、財政悪化などの問題点も生じていることも理解させ、これから進行していく日本の高齢社会に対してのどうすべきかを考えさせた。

〔4〕授業実践を終えて

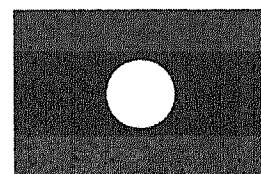
今回の研修の授業実践は、「世界の人口問題の発展途上国の問題点」の学習内容でラオスを取り上げて行った。現地の病院の視察で得られた情報をもとに、医療技術、機材の遅れ、加えて貧困のために病院で診察を受けられない人々、高額な治療費が払えない人々、薬が満足に行き渡らない現状を生徒に伝え、そのために乳幼児死亡率が高いことを伝え、日本でなら死亡することのない病状でも命を落としてしまうことがあることを伝え、考えさせる良い機会となった。この現実先進国のわれわれが何かできないかということに関して、看護師として現地に派遣されている青年海外協力隊員の活動を紹介し、日本が発展途上国へ援助を行い、国際貢献していることを生徒に理解させることができた。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

- 『ラオス人民民主共和国の看護教育の過去・現在・未来』
小西清美、草間朋子 大分看護科学研究 5 (2) 2004
- 『ラオス：妊産婦と新生児の死亡率減少の取り組み』 unicef 2009/3
(http://www.unicef.or.jp/library/pres_bn2009/pres_09_13html)
- 『ラオスの光・国際協力の現場（中）』 国際協力機構 2009/12
(http://www.jica.go.jp/story/media/media_17.html)

Sabai dee LAOS!

～ラオスで考えた「幸せ」と「豊かさ」～



Laos

藤木 優子

東京都立松原高等学校

- 担当教科：英語
- 実践教科：リーディング、ライティング
- 時間数：2時間
- 対象：高校3年生
- 対象人数：7名×3クラス

(1) 授業実践のテーマ・目的

- ・物質的な「豊かさ」が「幸福感」に直結するわけではないことに気づき、日本とは異なる文化を尊重すると同時に、日本の持つ良さを再認識する。
- ・日本とは異なる生活習慣、価値観、文化などを知ることにより、現在の日本の状況や自分自身の生活・価値観を顧みる。
- ・東南アジアの中でも日本ではあまり知られていないラオスに着目し、ひいてはアジア地域、世界に対する興味・関心を養う。

(2) 授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【ラオスを知ろう】 世界の中からアジアに着目し、さらにラオスという国について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の知っている国を列挙し、その国を白地図に塗り場所を確認 ・ラオスクイズ ・ラオス・スライドショー ・フォト・ランゲージ～写真からラオスを読み解こう～ ・ラオスで知り合った「二人」を紹介 	パワーポイント 白地図 写真
2	【幸せを考えよう】 まず自分で幸せについて考え、グループワークで他者と話し合い、次に異文化での幸せ観を知り、最後に自らの「幸せ」を再考する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「幸せ」についてワークシートを記入 ・アクティビティ「ほしいものと必要なもの」 ・ラオスで知り合った「二人」の幸せの理由とラオスからの留学生の話を紹介 ・振り返りシートの記入 	パワーポイント ワークシート アクティビティ用カード 振り返りシート

(3) 授業の詳細

1次限目：【ラオスを知ろう】

【導入として、まず自分の知っている国を白紙に列挙する（2～3分）。生徒に書けた数や国名を尋ねながら、世界の国の数を確認する（国連加盟国192ヶ国）。次に国名が入った白地図を配布し、書けた国に色を塗る。知っている国がどの大陸、地域に多いかを視覚的に認識することによって、知識・情報の偏りに気づく。その中からアジアの国々に着目し、さらにラオスの位置を確認して意識を向ける。

生徒の反応

思ったより書けた国が少なかった / 先進国が多かった / 国名と場所が一致してなかった / 知らない国がたくさんあって世界は広いと思った / 上半分（北半球）が多かった / ヨーロッパやアメリカ（大陸）が多くて、アフリカやアジアは少なかった

ラオスクイズと題した〇×（または2択）クイズで、ラオスの特徴的なことや特に日本と違うところなどを挙げる（5題程度）。さらに1行程度の簡単な説明を付けた写真をスライド形式で流し（10枚程度）、ラオスの雰囲気伝える。

【ラオスクイズ (一部)】

LAOS QUIZ

Q1 ANSWER
 ラオスにはきれいな海がある
 NO
 ラオスに5つの国々に囲まれた東南アジア唯一の内陸国

海はありませんが、メコン川があります



LAOS QUIZ

Q2 ANSWER
 ラオスの主食はパンである
 YES
 でも！
 一番の主食はもち米

もち米をカオニャオといいます



【ラオス・スライドショー (一部)】

果物とおいしい
 果物ともち米で肌触りにはならない



乗り合いタクシー「トゥクトゥク」



児童館で踊りを披露してくれました



写真2 泥だらけの子ども (農業の様子)

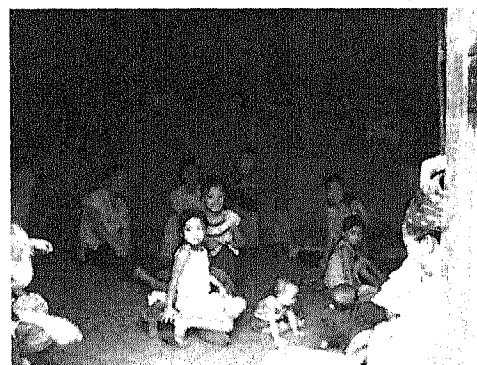
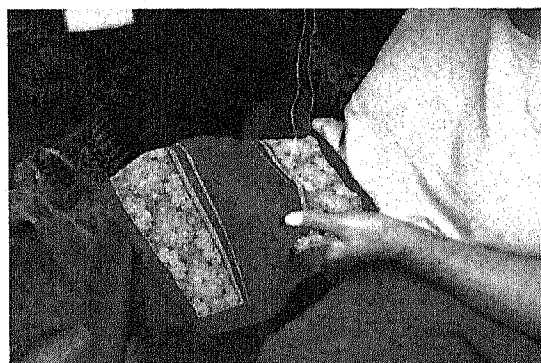
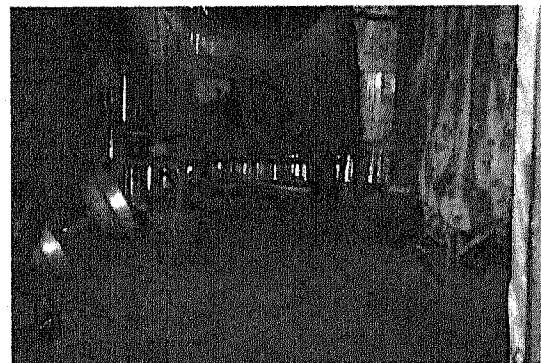


写真3 モン族の家族
 (大家族、女性達の刺繍作業、家屋の様子、床が土など)

写真3の補足資料写真 (一部)



モン族の女性がする刺繍



家の中の様子

次にグループワークとしてフォトランゲージを行う。生徒を4、5人のグループに分け、各グループに1枚ずつA4版の写真を配布する。気づいたことをすべて別紙に書き出し、発表する。写真は全部で3種類用意し、発表し合うことで他グループの写真情報も共有できるようにした。

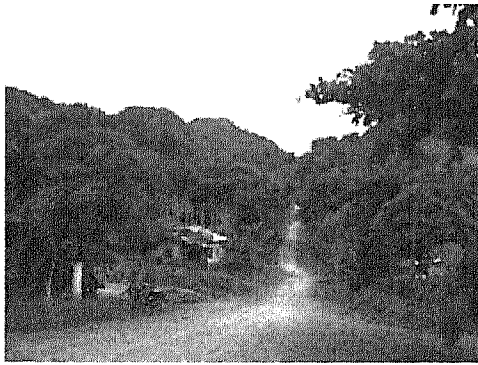
発表後、最初の写真で着目してほしい点をより明確にするため、L版の写真8枚(A3版1枚にカラーコピーしたもの)を補足資料として配布し、生徒の理解を促した。

フォトランゲージ～写真からラオスを読み解こう～



写真1 小学校の教室授業風景

(教室前方にある国の指導者の写真と国旗、民族衣装の制服、歯みがき指導など)



モン族の村

この時間の終わりに、「ラオスで出会った二人」として、ラオ族の青年サイとモン族のある父親の紹介をする。ラオ族はラオスの主たる民族であり、英語を話すことができる彼はエリートである。またモン族は少数民族で、前述の写真3に登場した家族の父親には4人の子どもがいる。ともに同じ集落で暮らしている。その二人に「あなたは幸せですか」と尋ね、答えが「YES」だったことを紹介する。理由についてはここでは伏せ、生徒に想像するよう促し、次の時間へつなげる。

【「ラオスで出会った二人」(一部)】

ラオスで出会った二人

モン族 ある家族の父 (左) ラオ族のサイ (右側の青年)

あなたは幸せですか?

YES

<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> モン族のババ 「家族がいて仕事がある」 <input type="checkbox"/> ラオ族のサイ 「両親が健康で、自分は高等教育を受けることができる」 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> モン族のババとサイは、なぜこれで幸せというのか? <input type="checkbox"/> なぜ日本は「幸せな国ではない」といわれるのか? <input type="checkbox"/> 豊かさと幸せはどんな関係なのだろうか?
--	---

2 時限目：【幸せを考えよう】

各自ワークシートを記入する。質問事項は、

- ①あなたにとって幸せはなんですか?
- ②あなたにとって幸せな時はいつですか?
- ③いま不満に思っていることは?
- ④いま、あなたは幸せですか?その理由は?

の4項目である。

次に「ほしいものと必要なもの」というアクティ

ビティを行う。生徒を4、5人のグループに分け、各グループに26枚のカード(25枚には項目が書いてあり、1枚は白紙。必要があればグループで話し合い、1項目だけ書き足してよい)を配布し、2~3回に分け5枚のカードを残す。選ぶ基準は「より良く、豊かに生きるために必要なもの」という点に注意し、生存競争ではないことを強調する。話し合いを通じて選んだ5枚を用紙に貼り、選んだ理由とメンバーの名前を記入する。その後、各グループで発表し、全体で共有する。

最後に、前時で紹介した「二人」の幸せの理由を紹介する。ラオ族の青年サイの幸せの理由は「両親が健康で、自分は高等教育を受けることができる」、モン族の父親は「家族がいて仕事がある」である。また、ラオス支援を行っている日本のNGOの方から伺った次の話を、あくまでも個人の経験に基づくものであることを踏まえて紹介した。「ラオスから日本に来る留学生の多くは、日本は豊かな国だと憧れて日本に来る。頑張る勉強し、日本の企業にも就職し何年かは頑張るが、『日本は幸せな国ではないね』と言ってラオスに帰る人が多い」というものである。

アクティビティの際には、各グループが議論に白熱し発表後の共有もままならないほどだったが、最後の2つの話にはずっと静かになり、聴いている様子が窺えた。

2時間連続授業全体のまとめとして、各自振り返りシートを記入する。

生徒の反応：ワークシートより抜粋

①あなたにとって幸せはなんですか?

家族や友達がいること / 人とつながっていること / 皆が健康で楽しく暮らしていること / 些細な喜びの積み重ね、笑ってられること / 好きなことができること / 生きていること / 金・地位・名声 / おいしいご飯を食べて温かい布団に寝ること / 普通・平凡・平和

②あなたにとって幸せな時はいつですか?

笑っているとき / 大切な人と一緒に過ごしているとき、自分の時間を過ごしているとき / 好きなことをしているとき / 寝るとき / お腹いっぱいするとき / 赤ちゃんを見たとき / 学んでいるとき / いつも

③いま不満に思っていることは？

お金がない / 時間が足りない / 受験 / 就職難 / 学校生活 / 中途半端な自分 / 日本の政治 / 特にない

④いま、あなたは幸せですか？その理由は？

YES → 環境に恵まれている / 家族がいて友達がいて何不自由なく暮らせる / 受験に合格 / 楽しい / 生きてる / 毎日食事ができる / 幸せじゃないなんて贅沢

NO → 不安ばかり / 卒業が近い / 思い通りにならない / 進路が未定 / なんとなく

生徒の反応：振り返りシートより抜粋

①ラオスについて

同じアジアでもこんなに違うと思わなかった / 家族愛すごい / 写真に写っている人達が楽しく幸せそうに見えた / 授業を真面目に受けている写真があった / 豊かではないけれど愛とか思いやりがある / 日本にはないものがある / 行ってみたいくなった / 実際に行ってみたら考えが変わりそう / 知らない外国人を気持ちよく受け入れてくれて優しい / 人々がたくましい / 心は豊か / ストレスなんて言葉はないほうが良いかも

②幸せを考えたことについて

今幸せだと改めて気づいた / 幸せの感じ方はそれぞれだけど幸せと感ずることが素晴らしい / 見方を変えればたくさんの幸せがある / 今まで考えたことなかったけれど自分が恵まれていることに気づいた / 世界の幸せを考えて自分の幸せにつなげたい / 幸せなのかそうでないのかを考えられることに幸せを感じた / 小さなことでも幸せを感じられるようになりたい / 途上国だから必ずしも不幸ではないし先進国でもたくさんの不幸な人がいる / 自分が思っているより身近なもの / 誰とでも仲良くなれば友達になればいい

③全体を通して感じたこと、考えたこと

日本からラオスに戻る人が多いと聞いて寂しくなった、悲しくなった、ショックだった / 自分の考えも他の人も考えも大切にしたい / 文化の違いや考え方の違いを自分の目で見たい / 視野を広く他国の文化にも目を向けることは大切だと思った / 世界の様々な文化や情勢を知って自分の暮らしを再認識すべき

(4) 授業実践を終えて

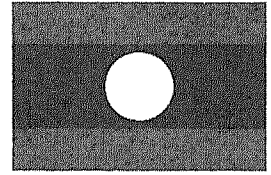
「どのような授業をするか、研修前から頭を抱えていた。実際ラオスに行ってみると、時間はゆったり穏やかに流れ人々は大らかで、すっかり寛いだ気分になってしまった。こうした雰囲気伝えるにはと思案しているうちに、ラオスの抱える問題も次々と頭になり、再び困惑した。どうやらラオスの人々には私達とは違う価値観の「幸せ」があるのかもしれない。「幸せとは？」「豊かさとは？」とメンバーで話し合うことも度々だった。

授業には体験の新鮮さが活きることもあるだろうが、今回の自分自身のことでいえば、実践までに間があったことで体験と混乱が濾過され、10日間でもっとも心に残ったことを中心に据えて授業を構成することができたと思う。次は熟成の段階に進み、新しいラオス体験を重ねて深めていけたらと思う。また公立高校では様々な制約もあるが、授業に限らずできることから、開発教育の実践を根気強く続けていきたいと改めて感じた。

(5) 参考文献 (引用文献・参考資料)

- 『開発のための教育 ユニセフによる地球学習の手引き』(財)ユニセフ協会 1994

ラオスについて知ろう



Laos

相沢 友紀

東京都立城北特別支援学校

- 担当教科：小学校全科（小学校に準ずる教育課程）
- 実践教科：特別活動
- 時間数：2時間
- 対象：小学部C学習グループ（小学校に準ずる教育課程）1年生～6年生
- 対象人数：12名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

- 外見や国籍、文化が違って認めようとし、それぞれの良さや互いを認め合うことの大切さに気づく。
- ・ラオスの文化やそこに暮らす人の生活の様子について知り、興味・関心をもつ。
- ※国際理解教育や開発教育への導入段階としての授業とする。

〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1 2	<p>【ラオスってどんな国？】</p> <p>導入としてラオスという国を知っているかどうか児童に質問し、ラオスの側面にふれながらも、合わせて本時の活動の説明をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ラオスってどんな国？」と質問することによって未知の国への期待を高める。 ・世界地図とラオス全図を使って地球上の位置関係や近隣国を知る。 ・世界地図を取りはらうと、テーマが書かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民族衣装 ・指示棒 ・世界地図 ・ラオス地図 ・ラオス文字表 ・可動式ホワイトボード ・写真45枚(A4サイズ) (導入部分では暗幕に隠れており見えなくしてある)
	<p>【ラオスについて知ろう】</p> <p>お気に入りの写真を1枚見つけて発表する。</p> <p>前面ホワイトボードと台面に掲示された計45枚の写真から好きな写真を1枚見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォト・ランゲージによる手法を使う ・最初に例示することによって活動への見通しを持たせる。 ・写真はおおむね「人」「モノ」の2種類に大別してアトランダムに掲示してある。 ・分からないことがあればMTやST(注2)に尋ねよう促す。 ・日本との違い、あるいは類似点を訪ね、考えさせる。 ・児童から質問が出たら、それに答える。 	
	<p>【選んだ写真を発表しよう】</p> <p>・1年生から一人ずつ前に出て発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発表に対し、賞賛する。 	
	<p>【本時の振り返り： 「他の国を知る」のはどんな気持ち？】</p> <p>・お気に入りのラオスの写真を見つけた時、皆の前で発表した時にどんな気持ちであったかを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3種類の表情カードを使って自分の気持ちを発表する。 ・「違いを知る」ことは新たな発見でもあり、嬉しかったり、心地よかったりすることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表情カード (振り返りの時間までこのカードはラオス文字表の後ろに隠してある)

【MT】 主指導 (MainTeacher) のこと。授業の進行や統括の役割を担う。

【ST】 副指導 (SubTeacher) のこと。児童に対しての身体的な介助も含めて MT を補佐する。肢体不自由特別支援学校の場合、授業はそのほとんどが MT と ST によるチームティーチングの形態をとる。本時では、MT1名、ST4名の計5名体制。

③ 授業の詳細

【ラオスってどんな国？】

まず、導入として「ラオス」という国の側面に触れることにした。この授業を実践する前には児童には「夏休みにラオスという国に勉強をしにいった」としか伝えていない。これは、この授業の中で使用する技法「フォトランゲージ」の効果を高めるためである。

導入では、世界地図、ラオス地図、ラオス文字表を使い、ラオスが地球上のどこにあるのか、ラオスの近隣国はどこか、日本との距離はどのくらいかを確認した。またMTは民族衣装を着用することによって視覚的効果を持たせた。

【ラオスについて知ろう】

展開では、「お気に入りの写真を1枚見つけて発表する」という課題を与えた。写真は、全部で45枚あり、「人」が中心に写っている写真と、「モノ」が中心に写っている写真とに大別できる。また、すべての写真に紺色か黒色の台紙がついている。これは、視機能に配慮を要する児童がいるためである。また、台紙にも意味を持たせ、紺色の台紙のものは「人」、黒色の台紙のものは「モノ」の写真とした。

写真は、教室前方と、台面に掲示した。あらかじめ黒のラシャ紙ですべてを隠してあり、児童による「3・2・1!!」のカウントダウンで一気にそのラシャ紙をはがした。これも視覚的なインパクトを与えるためである。児童からは、「わーっ」という歓声が上がった。

写真を選ぶ時間については、十分な時間をとった。1年から6年までと、対象学年に幅があり、またここでSTの児童に対する助言をふまえつつ、児童自らの感性で写真を選んでもらいたかったからである。



使用した写真はA4判で計45枚。提示前はすべて黒いラシャ紙で覆い、児童から見えないようにした。

【選んだ写真を発表しよう】

ここでは、1年生から順番に前に出てもらい、「どれを選んだのか」と「なぜそれを選んだのか」を明確にして発表してもらった。選んだ写真は千差万別で、「何だろうと思ったから」と露店のかき氷屋のトッピングの写真を選んだ児童、「ひらがなを発見したから」と、日本製のラオス版ノートパソコンの写真を選んだ児童、「日本と全然違うから」と、校庭で一斉に歯磨きをする小学生の写真を選んだ児童などがいた。中には、「環境に良さそうだから」と舗装されていない道路の写真を選んだ児童もいた。

選んだ写真については、大きく分けると「日本と似ているから」という理由と、「日本と大きく違うから」という理由に分けることができる。いずれにしても、「日本」が児童の中で比較対象となることがわかった。

【本時の振り返り：

「他の国を知る」のはどんな気持ち？】

まとめでは、お気に入りのラオスの写真を見つけたとき、皆の前で発表した時にどんな気持ちであったかを振り返ることとした。「お気に入りのラオスの写真を選んでいるとき、そして自分のお気に入りを見つけたとき、皆の前で発表したときに、じぶんはどのような表情であったか」という発問とともに、3つの表情イラストを提示した。A、B、Cと記号が付いており、Aは笑顔、Bは怒った顔、Cは泣き顔になっている。この表情イラストはほかの授業でも相沢が頻繁に使うものであり、児童からは「また出たよ!」というような歓声と「A(の顔)!!」

という声が一斉に上がった。

児童にとって、「違いを知る」ことは、新たな発見であり、それは、嬉しかったり、心地よかったりすることを体感できた授業ではなかったかと感じている。

〔4〕 授業実践を終えて

本校では、今まで「国際理解教育」や「開発教育」に関しての先行授業がなく、この授業をつくるにあたって正直なところ、漠然とした不安があった。第一の不安は「児童の反応」であった。「ラオス」という名前さえも知らない国に対してどのように興味

を持たせたらよいのだろうか？その点に的を絞って指導案を作っていたところ、STのアドバイスもあり、視覚的効果に訴えた授業となった。

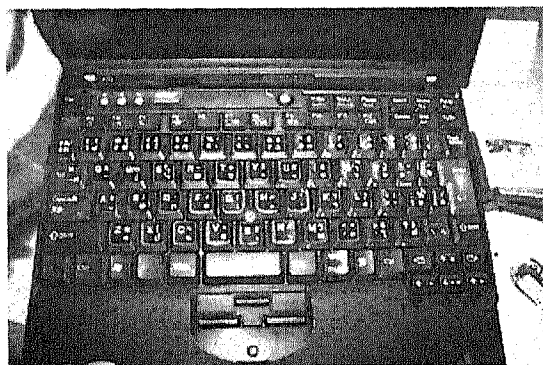
児童たちは、「見たい」「知りたい」「体験したい」と、私が思う以上に興味・関心を示してくれた。おそらく、児童の誰もが世界のことをもっと知りたいのだと思う。本校は、肢体不自由特別支援学校でもあり、児童たちにとっては「外へ出ていく」という行為も、まだすべてがバリアフリーになっている状態と言い難く、困難を伴う場合もある。そのような中であって、このような授業を実践するのは大きな意義があったと思う。

〔5〕 参考文献(引用文献・参考資料)

- 『旅の指差し会話帳 ラオス』 亀田正人 情報センター出版局 2005
- 『平成20年度 教師海外研修 授業実践報告集』 JICA 地球ひろば 2009
- 『小学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省
- 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省

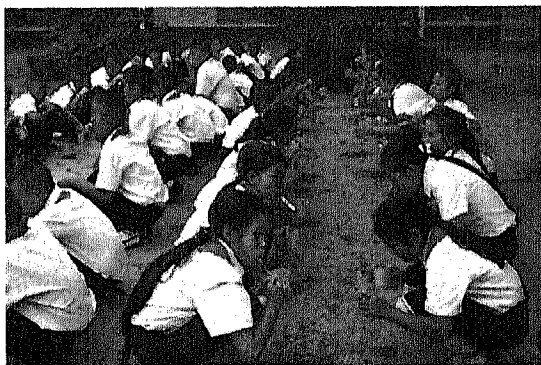
〔6〕 使用教材

- 可動式ホワイトボード
- 世界地図
- ラオス全図
- ラオス文字表
- 写真45枚(A4判、台紙付き)
- モン族の民族衣装



ラオスにあったノートパソコン。よく見ると平仮名もついている。

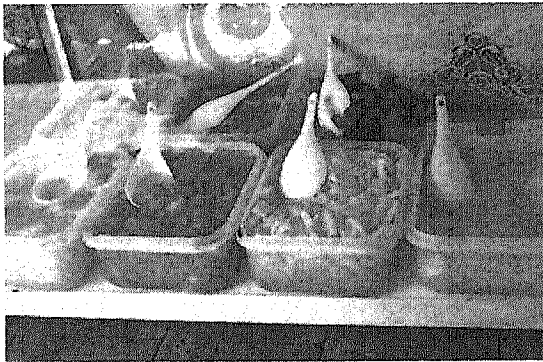
【児童が授業で選んだ写真の一部】



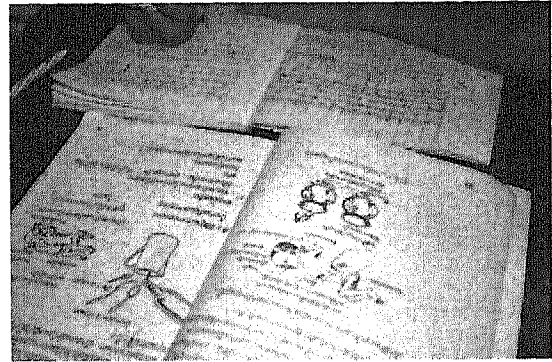
校庭で一斉に歯磨きをしているところ。



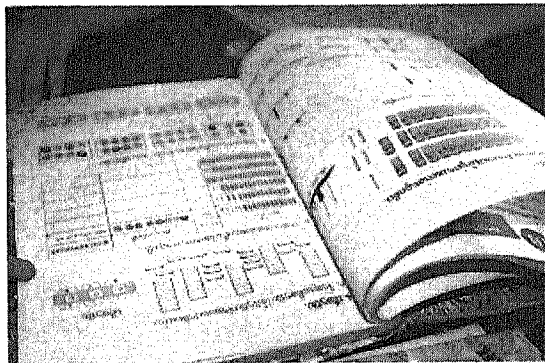
舗装されていない道路。



屋台のかき氷屋のトッピング。



教科「私たちの身の周り」の教科書。赤ちゃんの育て方が書かれている。



算数の教科書。言葉はわからなくても何の単元かなんとなくわかる。



学生食堂でお昼をとる小学生たち



手洗いなど、感染症対策のポスター。



小学校の校庭にある売店。児童たちは驚いていた。